

持ったのはなぜか、貴族はどんな政治くらしをしていたのか」という課題を設定し、道長の勢力、貴族の生活、平安文化などをとらえさせようとした。

○ 第一・二時……「課題づくり」と道長についての記者レポート

満月の歌や貴族の船遊びの絵から課題を設定した。課題は「道長ら貴族はどうしてこんなすごい歌を歌い、華やかな生活ができたのか」である。そして中心人物である道長について調べていこうということになった。そこで「道長とは一体何者か」をテーマとして記者レポートづくりに取り組んだ。

レポートの作成に当たっては、道長の家系図、平安時代の年間行事などのヒントカードなどを十分に活用させた。レポートをもとにした話し合いでは、道長の勢力の背景に迫る意見が数多く出された。

○ 第三・四時……グループ新聞作り
「では貴族はどんなくらしをしていたか」についてグループ新聞の作成、発表を行った。グループの編成は児童の興味・関心に応じたものとし、貴族の住まい、貴族の文学などの中から選択させた。また作成した新聞をわかりやすく説明できるように発表原稿を作成するようにさせてみた。各グループそれぞれがアイデアをしぼり、内容の充実した新聞の作成、発表を行い、平安文化の紹介をしていた。

○ 第五時……地方の人々のくらし
「地方の人々も道長のようにくらし

資料 指導計画「藤原道長と貴族のくらし」

(一部省略)

段階	時間	学習のねらい	学習活動・内容	留意点・手だてとの関連
第一 次	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道長の権勢をほしのままにする気持ちを読みとることができる。 ○ 道長がどのようにして地位を築いたかを調べ、レポートにまとめることができる。 	<p>S</p> <p>小小単元のガイダンス</p> <p>「満月の歌」を歌うほどの貴族(道長)は一体どんな政治をし、どんな生活をしていたのか</p> <p>道長が「満月の歌」を歌うほどに力を持つことができたのはどうしてか</p> <p>「私は藤原道長」というテーマで記者レポートづくりをする。</p> <p>記者レポートをもとに道長が権力を持ったわけについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都が都となった時代の学習であることを年表でおさえる。 ○ 道長の肖像画や「満月の歌」を提示して単元の中心課題をつくる。 ○ それぞれの児童の予想や興味、関心を生かして個人学習に取り組ませる ○ 系図、年表などの資料を用意し、個人学習に取り組ませる。(材)プリント、VTR ○ OHP、年表、系図などの資料を使って発表させていく。
第二 次	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道長を中心とした貴族の生活を調べるという見通しが持てる。 ○ 平安時代の貴族の特徴的なくらしのようすをとらえることができる。 ○ 貴族を中心とした国風の文化がつけられたことがわかる。 	<p>道長ら貴族はどんなくらしをしていたのだろうか</p> <p>儀式、行事、寝殿造、文学などについてくわしく調べよう。(グループ新聞)</p> <p>やしき 儀式 教養 服装 行事 文学</p> <p>グループ新聞の発表をし、貴族のくらしやこの時代の文化について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これほどの力を持った道長ら貴族のくらしに視点を向けさせる。 ○ ぜいたくなくくらしということだけでなく文化を生みだしていったことに着目させて新聞づくりをさせる。 ○ 児童の興味、関心に応じてグループピングし、作業させる。 ○ あらかじめ他グループへの質問を考えさせておきたい。

をしてきたのか」について追究し、武士の起りについて吹き出しや道長へ本単元の指導を通して、以下の特徴がとらえられた。

○ 基礎・基本の達成率は学級全体で八十パーセントであるが、下位群は四十パーセントが未達成であった。
○ 手紙などには、事象について幅広くとらえた記述が見られた。

五 研究の結果

○ ノート、レポート、新聞、話し合いに意欲的な取り組みが見られた。
○ ノート、レポート、新聞などに工夫が見られるなど個性的なまとめがされていた。

わずかに四単元の実践であり、結論とするには性急であるが、基礎・基本の達成状況、意識調査、各単元での学習状況から次のような結果がとらえられた。

(1) 人物を中心とした一小単元一サイクルの授業展開により児童の思考を連続的に発展させることができた。

(2) ふきだしノート、レポート、新聞などは基礎・基本の定着や一人一人の個性を生かすことに効果があった。

(3) 指導計画や指導過程に興味・関心、見方の違いによる選択の場を設けることにより、児童の学習意欲を高めることができた。

六 研究の反省と今後の課題

(1) 基礎・基本を能力目標として分析したが、達成のための手だてが固定化しないよう工夫していく。

(2) 単元の終末段階の活動が、その時間のまとめに終わってしまい、単元の学習事項を十分に生かすという姿へのもっともふさわしい活動・内容